

# 愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



地引網体験と海鮮バーベキューにみんな大満足な様子でした！

## 第1回

## いきな睦月の海祭り

プレ松山島博覧会の  
記念行事を開催し  
来年の本番へ向け  
確かな手ごたえ！



平成二十二年度に本格開催される松山島博覧会。プレ開催となる今年度にも、各島で多くの事業が計画されています。その一番手となる海の行事が真夏の睦月島で行われました。

『いきな睦月の海祭り』と名付けられた本催しは、七月十八日土曜日、三十人余りの親子連れの参加の下、にぎにぎしく開催され、「地引網体験」で獲れたびちびちの魚介はおみやげに、あじ・めばる・あわび・さざえ・たこ・岩がきなど厳選素材を「海鮮バーベキュー」で味わっていただいたほか、仕上げには鯛飯・たこ飯を召し上がっていただくなど、参加のみなさんには、島の海の幸を十分に満喫いただきました。睦月島では、開催にあたり、メイン行事の地引網の準備はもちろん、バーベキュー食材確保のための立て網漁、食事会場の設営のほか、炭おこしからおみやげ容器・持ち帰りのための水の準備に至るまで、あらゆる準備活動に多くの住民が関わり奔走しました。幸い睦月地区は、これまでも『お大師参りウオーキング』を3度実施するなど催しをこなすノウハウに恵まれ、それらを切り盛りするスタッフにも事欠かないことから、今回の先鋒役を見事務められたのだと思います。ともあれ、参加者のみなさんからは至極満足の声を聴くことができ、ひと安心です。第2回、3回の海祭りも、盛会であることを願っています。

さて、忽那諸島を舞台に、2カ年に亘り開催される松山島博覧会は、豊富な体験メニューの取り揃えをウリにする島嶼部活性化のための起爆剤的催しであり、島ならではのさまざまな体験をメニュー化し提供することで、忽那諸島全島のあらゆる魅力と、併せて各島の島民の元気を最大限引き出すことをそのねらいとしています。博覧会を通して、しまびとであるみなさんがまちの人たちと交流するなかで、みなさん自身が自らの暮らしや環境を見つめ直し、自分たちのふるさとのために奮起していただけたら、島の再生は決して夢物語ではなくなるでしょう。松山離島振興協会は、松山島博覧会の開催中においては実行委員会を全面的にバックアップし、同時に、協会独自の『大人の修学旅行』事業や、興居島で開催する『薪船踊り』事業などに全力で取り組み、そして、博覧会終了後においては忽那諸島の牽引役として、島のみなさんの幸せに少しでも貢献できるように、しまびとの声とともに歩む団体であり続けます。

in 忽那諸島

# 大人の修学旅行



「大人の修学旅行」は、違いのわかる大人たちに、**忽那諸島**のさまざまな魅力を心ゆくまで楽しんでいただくために、松山市の「坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業」を受け実施する**体験型の宿泊事業**です。

協会は、これまで「島めぐりクルージング」で培ってきたノウハウを最大限に発揮し、9月、10月、12月の土日に1泊2日の3コースの大人向けの旅をそれぞれご用意しました。島外の市民のみなさんに、忽那諸島の奥深い魅力を存分に体感していただくという趣向です。日帰りツアーでは決して味わい尽くすことのできない、忽那諸島の愉しみの数々をご堪能くださいませ。

松山離島振興協会を設立した平成十八年度以降、たいへんお世話になってきた松山市の「坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業」は、とりあえず規定の三年間を終え、四年目となった今年度、審査の結果、なんとかご支援のご決定をいただくことができました。

協会では、一昨年来、事業会計内での事業完結をめざし、採算重視の事業計画を行っており、今年度実施の事業に際しても、なるべく持ち出しを避け、参加費収入内での事業実施を行うことで、息の長い事業として継続できるよう努めています。

そのような中、今回、協会が掲げたメイン事業は、名付けて『大人の修学旅行』。団塊の世代



昨年実施した島めぐりクルージングの様子

のみなさんを主たるターゲットに、その年代の方々が興味をそえられるような体験メニューを数々取り揃え、忽那諸島の自然景観とともにゆつくりと、そしてたつぷりと島を楽しんでいただくこと、今回初めて宿泊事業に取り組みすることにいたしました。

まず九月十九〜二十日に中島・野忽那島コースを開催。宇和間地区の伝統料理を体験の後、フラダンス教室を開催、翌日は野忽那島でとろてん作りに挑戦です。十月十七〜十八日は怒和島・津和地島・二神島の神和三島をめぐるコースを開催。上怒和地区で釣りや干物作りを体験し、夜は津和地島で宿泊、翌日は二神島で篆刻教室など行います。最後は十二月十二〜十三日に中島・睦月島コースを開催。島の料理体験、たなかあつし氏の指導による木工教室を実施、翌日は睦月島でみかん狩りなど行います。

募集人数は各コースとも三十人程度。参加費は中島を含む二コースが一万五千円、神和コースが一万八千円です。交通手段は定期便を使用するほか、中島内はバスか徒歩で移動。

なお、募集は八月十五日号の「広報まつやま」および協会ホームページで行っています。

松山離島振興協会が、そもそもめざす離島活性の形とは、島民の多くが気軽に開かれる体験型交流事業の提案です。たとえば、島の料理を手ほどきする、島の見所を案内する、島の伝統文化を紹介する、地元の祭りを見物してもらう、島の歴史の語り部となる、あるいは自分の特技を披露するでも構いません。要は、島のファンを増やし、応援団を獲得するためのきっかけとなることならば何でも良いのです。今回の『大人の修学旅行』の部分サポート、こうしたところから島民のみなさんには参加をいただき、同時に、島外のみなさんには、忽那諸島が持つ大いなる魅力の一端にふれていただき、「しまの応援団」の一員に加わっていただくことを心から願っています。



# 興居島の夜に『薪船踊り』が初お目見え

／10月24日  
船越和気比賣神社



毎年、船越和気比賣神社の秋祭りに奉納される興居島の伝統芸能「船踊り」。その風格はそのままに、宵闇に包まれた神社の境内に幽玄な世界が繰り広げられます。

今回の企画は、長年、関係者の間で語られてきた夢が実現したもので、「島四国」とともに興居島が他に誇れる屈指の地域資源である「船踊り」をさらに魅力あふれる催しとして、また新たな島の名物として、興居島の活性化につなげようと提案されました。

ご期待ください！

勇壮華麗 豪華絢爛 しまの宝 興居島の『薪船踊り』

船越港内に浮かべられた台船の上で、豪華絢爛な衣装を身にまとい、見事な太刀さばきで繰り広げられる興居島の伝統芸能「船踊り」。秋祭りの伝統行事として今に受け継がれ、県の無形民俗文化財にも指定されています。「船踊り」は、毎年、由良地区の小富士文化保存会と、泊地区の興居島船踊り保存会とが交替で演じており、今年は興居島船踊り保存会が当番の年となっています。この興居島が誇る「船踊り」を宵闇のかがり火のなか、船越和気比賣神社の拝殿を舞台に、『薪船踊り』として演じてみようというのが今回の企画です。松山離島振興協会では、松山島博覧会を来年度に控え、後世につながる興居島の新たな行事をつくりあげようと、協会内に実行部会を設置し、赤崎務部会長の下、企画を練り上げ、準備作業を行っているところです。

『薪船踊り』は、十月二十四日、土曜日（荒天の場合は翌日に順延）、十七時から二十時の間、泊町の船越和気比賣神社の境内で開催します。当日は、伊予水軍太鼓の演奏や、地元のみなさんの出し物など予定しており、飲食の販売や、おみやげ品の販売なども行います。観覧料はおもてなしを含んで二千元。なお船賃は別途必要です。募集は九月十五日号の「広報まつやま」のほか協会ホームページで行います。初めての催しです。ぜひ、多くの皆様のお越しをお待ちしています。

## 子どもたちの声が島にこだまする／睦月島シーサイドキャンプ

市内で子どもたちに生の舞台を見せる活動を続けるNPO法人「松山子ども劇場21」は、観劇活動を機軸にさまざまな子育て活動を展開しており、2006年からは忽那諸島で夏のシーサイドキャンプ事業を開催しています。協会では、キャンプ事業開始当初から、キャンプの計画から実施にわたって全面的な協力を行っており、参加の多くの子どもたちに、島の魅力を存分に感じてもらっているところです。

今年、8月5日から7日の3日間、これまで3年間、野忽那島で行ってきたキャンプの舞台を初めて睦月島に移し、休校中の睦月小学校体育館を拠点に、地引網体験や魚のさばき方教室、野外料理体験やキャンプファイヤーなどのほか、特別メニューとして篆刻教室も実施いたしました。

今年のキャンプ事業は、子どもゆめ基金の助成を受け実施しているとのことで、2泊3日で3500円と破格の参加費です。そのことも手伝ってか、40人定員に対し、200人を超える申し込みがあり、実に5倍以上の倍率となったそうです。くちコミから毎年増加するキャンプへの応募数は、島の魅力への間違いのない裏打ちであり、協会にとっても喜ばしい限りの状況です。参加の子どもたちは、充実した時間を島の自然の中でゆったりと過ごし、いつしか町の喧騒を忘れ、すっかり島の子の顔になっていました。

今後も、忽那諸島を活動の場とするあらゆる事業に積極的な関わりを持ち、多方面から島の活性化に働きかけを行いたいと考えています。



本紙2008秋冬号で、忽那諸島との文化交流事業の模様をご紹介しました。古三津子ども虎舞保存会さんが、8月20日に東京で開催された「第11回全国こども民俗芸能大会」に中・四国ブロックの代表として出場し、全国のみなさんの前で素晴らしい演技を披露されました。田中静江会長、そして子どもたちに心からのおめでとうのこぼれを贈ります。これからもがんばってください。

## 【地域産業部】

8月8日、「三津の朝市」で興居島の桃を販売してまいりました。

興居島特産の桃を多くの食卓に届けようと、7月の「道後湯あがり朝市」へも持ち込みましたが、荒天のため市は中止。今回、思いを新たに「三津の朝市」に自慢の白桃を並べてみました。鮮魚の持ち込めない三津の場合、旬の果物や野菜は特に注目されます。ものの30分程で完売となってしまいました。

今後も、地産地消を推進するべく、地元のおいしい食材の提供に努めたいと思います。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 島原和暁

TEL961-3293



## 【観光振興部】

『大人の修学旅行』『薪船踊り』。両事業とも、これまでの3年間の取り組みを花開かせるための渾身の提案であり、今後、島の自前事業として立ち行くかどうかを計るための貴重な実験機会でもあります。

定住人口が減少の一途をたどる今後の日本においては、観光産業による交流人口の増加が、経済活性の鍵を握ると言われています。協会では今後、島の魅力を最大限ウリにした、ゆったり、のんびり楽しめる観光商品の開発に全力を挙げてまいります。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 田中 治

TEL998-0243



## 【しまづくり部】

ETC効果から高速道路利用が加速度的に進み、その一方で海上交通は不振を極め、ついには廃業を余儀なくされる船会社まで出てきています。私たち、島嶼部に住まう者にとっては、命の道を絶たれる不安を抱かねばならないこの状況に、生きた心地がいたしません。

松山離島振興協会は、地理的特性を持つ島嶼部の住民の生活を守り、生活格差の少ない松山の実現のため、行政への働きかけに努め、今後とも、官民協働の明るいしまづくりにまい進してまいりますので、引き続き、みなさんのご協力をお願いいたします。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤久司

TEL998-0606



**しまはくホームページが完成！情報をゲットして。**

<http://shimahaku.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆